

1 「街づくり悩みごと相談コーナー」相談の募集

主催：(社)日本都市計画学会中国四国支部

協力：広島市市民局市民活動推進課まちづくり支援担当、(特活)ひろしま NPO センター、
(社)広島県建築士会広島支部まちづくり委員会

(社)日本都市計画学会中国四国支部では、地域貢献活動の一環として、広島市市民局市民活動推進課まちづくり支援担当、(特活)ひろしま NPO センター、(社)広島県建築士会広島支部まちづくり委員会と連携し、今年度試行的に、具体のまちづくり活動における悩みごとへのアドバイスによって地域住民のまちづくり活動を支援することとしました。

類似の悩みを抱える他の活動の問題解決への波及など、モデル的な内容となるご相談ごとについては、現地調査や追加のヒアリングなどを行い、後日アドバイスレポートを作成し、お届けします。

悩みごとご相談の受付は先着10件(ホームページ受付5件、会場受付5件程度)を、そのうちアドバイスレポート対応件数は、2~3件を予定する。相談コーナーの開設は、一日限りとしますが、これを補うため別途、支部ホームページでも受け付けます。

1 街づくり悩みごと相談コーナーの開設

面談方式の相談は、当日会場で受け付け、先着5団体程度を想定するが、これを超える場合もできるだけ相談に応じます。

(1) 日時 2007年11月10日(土) 10:00~12:30

(2) 会場 ホテル法華クラブ広島 安芸の間
(広島市中区中町7-7 電話082-248-3371)

(3) お持ちいただくもの

活動の概要がわかる資料

活動目的や経緯、活動地域、団体の構成者、活動内容、活動現場の写真など

2 ホームページでの先行相談受付

ホームページでは先着5団体程度の受付を予定するが、これを超える場合もできるだけ相談に応じます。

(1) 受付期間

2007年8月20日~9月30日

(2) 依頼の方法

ワード等の文書ファイルにご相談の内容を具体的に記載し、連絡担当者の連絡先を明記いただき、活動の概要がわかる資料(活動目的や経緯、活動地域、団体の構成者、活動内容、活動現場の写真 など、ホームページがある場合はURL可)を添付して、

支部のアドレス c-plan@ccrc.or.jp

街づくり悩みごと相談コーナー 担当 松田 智仁 あて に送信願います。

(3) 取材

・相談内容に不明な点がある場合などには、担当者から確認します。

・アドバイスレポート作成対象案件に採用した場合は、担当者が現地取材を行います。

3 お受けする相談内容と対応者の例示

課題分析・類似事例紹介、アドバイスレポートまとめ

都市計画学会中国四国支部会員

組織基盤強化、財源確保、経理指導等アドバイス

都市計画学会中国四国支部会員、ひろしま NPO センター職員、広島市まちづくり支援担当職員

建築関係等法解説、合意形成誘導、人材育成等アドバイス

都市計画学会中国四国支部会員、広島県建築士会広島支部まちづくり委員会委員、広島市まちづく

り支援担当職員

4 対象活動

中国四国 9 県内において、概ね 5 年以上街づくり活動に取り組んでいる市民団体の悩み事を対象とします。

街づくり活動：安全歩行空間の整備・バリアフリー化、街並みの保存や活用、住宅団地の環境保全、公園の改良・管理、集落景観の維持、道路や公園を活用したイベント開催など

5 費用

無料。

お問い合わせ先

支部アドレス c-plan@ccrc.or.jp 街づくり悩みごと相談コーナー担当 松田 智仁 あて

2 募集結果

1 募集の PR 方法

- (1) 支部ホームページへの掲載
- (2) 国土交通省中国整備局建政部メールマガジンへの掲載(中国 5 県の全市町村)へ
- (3) 総括シンポジウム開催案内チラシへの掲載
- (4) 7 人の相談コーナー相談員による各種 PR
- (5) マスコミの報道(朝日新聞、中国新聞)

2 相談受付結果

- (1) 事前メール相談(10 月末まで延長)・・・4 団体・9 件
 - 呉にぎわいプロジェクト実行委員会
 - ・ 中心市街地経営者の意識改革
 - ・ 中心市街地の商業環境整備
 - NPO 法人かみじまの風
 - ・ 行政との協働
 - ・ 活動資金の確保
 - ・ 中山間地域での NPO 活動のあり方
 - 広島市中央部商店街振興組合連合会
 - ・ 行政の計画への意見反映
 - 徳島県建築士会青年部ひょうたん島・景観まちづくりチーム
 - ・ 若者の活動参加促進
 - ・ 市民が気軽に参加できるワークショップの開催
 - ・ 小中学生参加のワークショップの開催
- (2) 当日来場相談・・・1 団体・4 件
 - 草津まちづくりの会
 - ・ 後継者の不足
 - ・ 行事企画のマンネリ化
 - ・ 女性の活動への参画
 - ・ 活動資金の調達

3 アドバイスレポート作成、結果公開方針

- (1) アドバイスレポートの作成
 - 相談が少数のためすべての相談にレポート回答を行う。
- (2) レポートの作成方法
 - 相談員ごと、主に担当分野の相談について回答する。
 - なお、相談員のいずれかが現地を承知しているため現地調査は行いませんでした。
- (3) 結果の公開(類似の悩み事の参考に)
 - 相談団体に協議し、公開範囲を決定し、公開する。

中国地方まち・すまいづくりメールマガジン

【第23号：平成19年9月18日】

中国地方整備局建政部

このメールマガジンは、中国地方における都市・住宅行政に関わる情報で関係の方々にお知らせしたいものを提供することを目的として、お世話になっております地方公共団体等の皆様にお送りしております。

今月号は、二つの特集をお届けいたします。

一つ目は国の概算要求が8月末で取りまとまったことを受けて、まちづくり・すまいづくりに関係する主要な要求事項を整理いたしました。

二つ目はまちづくり活動について、行政だけではなく様々な主体が支援の取り組みをしておりますので、その概略を整理いたしました。

是非御覧下さい。

また、これから秋も深まって参りますと、まちづくり・すまいづくりに関する様々なイベント、実験的取り組み等が実施されると思います。

本メールマガジでもPRさせていただこうと思いますので、情報をお寄せ

頂ければ幸いです。

(編集長/都市調整官・藤岡啓太郎)

(中略)

【6】街づくり悩みごと相談コーナーの開設

【(社)日本都市計画学会中国四国支部】

(社)日本都市計画学会中国四国支部では、地域貢献活動の一環として、広島市まちづくり支援担当、ひろしまNPOセンター、広島県建築士会広島支部まちづくり委員会と連携し今年度試行的に、具体のまちづくり活動へのアドバイスなど、地域住民によるまちづくり活動の支援を行うことになりました。

類似の悩みを抱える他の活動の問題解決への波及など、モデル的な内容

となるご相談ごとについては、現地調査や追加のヒアリングなどを

させていただいた上で、後日アドバイスレポートを作成し、お届けします。

悩みごとご相談の受付は先着10件(ホームページ受付5件、会場受付5件程度)

を、そのうちアドバイスレポート対応件数は、2~3件を予定しています。

相談コーナーの開設は、以下のように一日限りですが、別途に支部HP

でもお受けいたします。

試行的開設ではありますが、皆様の市町において街づくり活動で悩み事

をお持ちの団体にも、当コーナーの開設をご紹介、ご活用ください。

1.街づくり悩みごと相談コーナー

(1)日時 2007年11月10日(土)10:00~12:30

(2)会場 ホテル法華クラブ広島 安芸の間

(広島市中区中町7-7 電話082-248-3371)

2.ホームページでの先行相談コーナー

(1)受付期間

2007年8月20日~9月30日

詳しくは、下記のチラシをご覧ください。

<http://www.crrc.or.jp/c-plan/file/071110soudan.pdf>

支部ホームページアドレス

<http://www.crrc.or.jp/c-plan/>

**公共空間生かす
まちづくり探る**

10日、広島でシンポジウム「中国・四国の現場で学ぶ公共空間とまちづくり」(日本都市計画学会中国四国支部主催)が10日、広島市中区中町のホテル法華クラブ広島で開催される。松江、岡山、徳島、高知の4市で開催されたリレーシンポジウムを総括し、パネルディスカッションなどで議論を深める。

4市で今年開かれたシンポの地元研究者が、水辺や日曜日などを生かした各市のまちづくり事例を報告。県内からも、京福川(広島市)の水辺と、呉市の瀬本通り(慶合)について報告する。4市の研究者に栗原仁英・比治山大学准教授らを交えて道徳、公園、河川などの公共空間を生かしたまちづくりについてパネルディスカッションをする。

また、「面めんりほみ」と相談コーナーも設置。事前に同支部のホームページ(<http://www.citico.jp/kyo-shinpo/>)で申し込み済みの申し込みを基に、5件を同日会場で行った。申し込みの相談に応じる。

相談コーナーは午前10時から午後5時、シンポは午後1時半から5時。参加無料。定員100人。問い合わせ、申し込みは地域計画工務内の同支部実行委員会担当(060-2693-1460)へ。(福盛司)

中国新聞記事

**公共空間活用した
まちづくりを紹介**

10日、広島でシンポジウム「中国・四国の現場で学ぶ公共空間とまちづくり」(日本都市計画学会中国四国支部)が10日午後一時半から、公共空間とまちづくりをテーマとする公開シンポジウムを広島市中区中町のホテル法華クラブ広島で開く。

支部員である大学教授や学生たちが、松江城周辺の堀川遊覧船など親水空間づくり(松江市)▽市中心部を流れる川の無料クルージング(徳島市)▽観光スポットとなった日曜日(高知市)など公共空間の活用事例を報告し、まちづくりの方法についてパネル討論する。

午前10時からは同じ会場で、まちづくり活動に対するノウハウを伝える「悩みごと相談コーナー」(先着5件)も設ける。

定員100人で無料。パネル討論のコーディネーターを務める松波龍一(副支部長)は「公共空間をうまく使い、思の長いまちづくり活動を展開するための道筋を探りたい」と話している。実行委員会(060-2693-1460)。

相談コーナー当日の様子

ホテル法華クラブ広島 安芸の間

草津まちづくりの会 藤井様



宮本様 10月のクレアルイベント本当にありがとうございました。4回のイベントを通じてまだまだ我々のお客様に対する対応は商品も含めて甘いのだと強く思いました。

街づくりでの悩み事ですが、商店街の皆さん方はイベントを行って人を集めても自分の事としてとらえていなのではないかと強く感じました。呉市が行うみなと祭りや食の祭典、土曜夜市でもお客様は10万人の単位でかなり来街されていますが、売上にはあまり結びついておりません。いまだにお客様が買ってくれないのであって、自分のお店の商品にも時流にあっていないとか、お客様の求めるニーズ、ウォンツに合っていないなどの問題があるとは認識しておられないのではと思います。現在は昔と違い陳列していれば買っていただけるものではありません。いかに購買動機をかきたてるように仕掛けをするか、いかにお客様のウォンツや、ニーズを売り場に反映させるかが大きく影響します。そのところをどのように理解してもらうかが問題であると思います。

さらに商店街の周りには郊外型のスーパーマーケットがどんどん出来て商店街に行くより いろいろな面で便利により快適になってきております。ソフト面だけでなくハード面でもみずをあけられている訳ですから、商店街においても 格段の努力が必要に思えます。このような中で今後どう対応してゆけばいいのか悩みはつきません。よろしく願いいたします。

呉にぎわいプロジェクト実行委員会

代表 (株)三和ストア 代表取締役社長 宇都宮 嗣記

<http://www.morinobu.jp/npo/information.htm#6/13>

町づくりについての現状と課題につきまして3点ほど提出いたしますのでご笑覧下さい。

1 行政との関係

本件について、まず最初に大きな課題としてNPO活動に対する行政の理解不足があります。ルーティンワーク以外について、行政全般の士気の低下が合併以後は特に感じます。NPOからの提案あるいは問題提起について真摯な受け止めがないことがこれを物語っています。

本町においては広島商船高等専門学校とNPOの連携により、かなり詳細な分析をした報告及びそれに基づく提案をしていますが、正直なところ関心を示さないのが現状です。政策立案は単に上部機関(県)からの提案待ちであり、これでは自治体としての機能を果たしていないように感じます。

例えば定住促進については『定住促進=空き家対策』との理解程度です。本来、定住促進は現在の住民が安全・安心して暮らせる町づくりがあって初めて外部へ対して『暮らしやすい町』であることをアピールすることが基本であり、『空き家があるから、どーぞいらっしやい』という次元のものではないはずで、パッションのない行政と連携或いは協働するNPOの苦悩があります。

2 活動資金

NPOが実際に活動する上では『人』、『もの』、『金』、『情報』が重要な要素ですが、資金については行政的配慮も必要と考えます。現在、NPO設立3年目を迎え、これまで財団等の補助金並びに行政よりの調査委託研究を受けての資金を非営利活動(障害者福祉関係・シンポジウム開催・講演会開催等)を実施してまいりましたが、県等においてNPO活動支援のためのファンドの設立等を望みます。

話は余談になりますが、私が広島市で理事長を務め障害児者を対象として在宅サービスを実施しているNPO法人では年間9千万の歳入があり、正規職員は8名、その他非常勤職員を入れますと総勢15名体制で事業を実施しているNPOの比較すると上島での活動はまだまだ多くの課題があります。NPOとして起業(営利事業)するためには何らかの公的支援も必要であると考えます。

3 その他

現況でのNPO活動には多くの課題がありますが、間もなく開催される理事会においてはこれまでの事業の見直しと行政との関係整理をすることになっています。地域づくりという広いフィールドを持ったNPO活動にとって、現状での活動の厳しさはありますが、今年度からは大学との連携を含め起業に向けての方針の転換を真剣に考えています。ある特定の事業を推進するNPOの場合は運営の困難性もありますが、重点的な事業展開が可能であり、その成果を一般に披見することは容易な面もあります。都市部と異なり、中山間地域でのNPO活動において地域づくりを標榜するとき、あまりにも多くの課題があり、限られた人材と資金では自ずから限界があると感じることもしばしばありますが、それ故にNPOの活動の在り方如何が地域の在り方の将来展望に大きな影響があると確信し、現在の活動充実を目指しています。

以上、とりとめのない内容ですが参考になれば幸甚です。

NPO法人かみじまの風(大崎上島町) 理事長 松浦 真英
<http://www.osakikamijima.jp/npo/>

「都心商店街活性化のための都市施設の再生調整」

現広島市民球場跡地が有効利用されるか否かで、広島市の将来は大きく左右されるのは誰の目から見ても明らかです。それを現在広島市が候補としているような「折り鶴の保管庫」や「何の変哲もない公園」にされてしまったら、また広島市は地方中枢都市の地位を下げ、福岡市には増々離され、しまいには岡山市に州都を持って行かれるかもしれません。

活性化の方向としては、広島商工会議所と連携できればと思っております。

また、都市計画学会中国四国支部でも、この問題に取り組んで頂きたいとも思います。

この機会に、都心コア活性化に資する施設計画に変更していただくための取り組みについて、ご相談申し上げます。

広島市中央部商店街振興組合連合会 青年部会長 若狭 利康

<http://www.cetra.jp/whatsnew/whatsnew.php?PHPSESSID=38d184867cbcb9b17dd83b32569a8af6#10>

街づくり悩みごと相談コーナー担当松田様

『ひょうたん島・景観まちづくり事業が抱える悩み』として現在3つの悩みがあり、ありのままの悩みを書かせて頂いております。何か良いアドバイスがあれば参考にさせて頂きたいと考えております。

ひょうたん島・景観まちづくり事業が抱える3つの悩み

ひょうたん島・景観まちづくり事業の悩み

毎年、市民の考えや意見を知るために、ひょうたん島クルーズ乗船会や講演会などを定期的に行い、市民との交流を図っているが、参加者の年代層が偏ってしまうのが悩み。

参加者の大半は50代・60代と中高年の方が多く、次に30代・40代の子供連れの家族と続き、10代20代の若者はほとんど皆無の状態。県内の関係する大学に呼びかけ参加を求めているが、関心は示すものの、積極的に参加しようと思うまでには至らないようだ。確かに建築のように単体でイメージでき、分りやすいものと違い、景観・まちづくりはとても幅が広く、イメージとして分りにくい部分が多い。また、乗船会と並行して景観調査を行っており、その調査への協力も同時に求めたのだが、ほとんどの学生の意見として、調査の為に時間を削ってまで参加をしたいと思わないようだ。またアルバイト代が出るのであれば調査に協力という形で考えてもいいという交換条件を出す意見もあった。

これまで何度も学生の参加を促してはいるものの、積極的な参加には至らない。これだけで結論を出すのは安易ではあるが、景観・まちづくりに関心を示す若者は少ないのが現状だ。その若者達に景観・まちづくりの魅力を知ってもらい、積極的に参加したいと思ってもらうにはどうすればいいのか？他県で前例があるのであれば教えて欲しい。

ひょうたん島・景観まちづくり事業の悩み

毎年、景観ワークショップを行っているが、その参加者の大半が建築士会・市役所・県といった専門家で、市民の参加者は少ない。そういった中で市民の参加者のひとりから次のような意見が出ていた。『ワークショップに参加して一番驚いたのは、専門家ばかりで市民からの参加が自分を含め数人であった事。開場の場所が会議室であるからかもしれないがまるで専門家の会議に来ているようだった。自分のような何も知らない市民が参加していいものなのか疑問をもってしまう。もっと気軽に参加出来るワークショップにしてほしい。』と話していた。

実際、前記でも述べたように、景観・まちづくりは幅が広く、イメージしやすいものではない。専門家がやる事だと思っている一般市民がほとんどで、その多くが関心をもっていない。普段生活をする上で不自由さを感じるものがないからかもしれない。実際、専門家は関心をもっているから専門家になって調査・研究を行うのであって、関心をもっていないものにとっては意味がよく分らないのかもしれない。もっと気軽に立ち寄って楽しんでもらえるワークショップをするためには、市民にこういった働きかけをすればいいのか？教えて欲しい。

ひょうたん島・景観まちづくり事業の悩み

小・中学生を対象にしたワークショップをやってみたいが、どういった形で進めればいいのか分らない。これまで会議の中で意見として出ているものの、実際の行動に移すところまで行ってはいない。

子供の参加を促す事で、親・兄弟に関心を持ってもらおうという狙いはあるのだが、どういった経路で小・中学校に協力を求めればいいのか具体的なものが上がってこない。

他県で前例があるのであれば教えて欲しい。又、継続的に進めていくにはどうすればいいのか？アドバイスがあれば頂きたい。

徳島県建築士会青年部 ひょうたん島・景観まちづくりメンバー 松尾 晶子

<http://hyoutanjima.blog86.fc2.com/>

<http://www.nmt.ne.jp/sikai/>

<http://www2.tcn.ne.jp/nposhinmachigawa/>



草津まちづくりの会は、広島三大銘菓「大石餅店」の廃業・解体を、まちを見つめ直すきっかけとしてレクイエムイベントを開催してから活動を開始、今年で10年目となる。「住んで良かったわがまち草津、ぶらり来んさい草津まち」をキャッチフレーズとして活動を続け、これまで、広島市の街づくりデザイン賞、まちづくり月間国土交通省大臣賞を受賞、昨年度は「夢街道ルネサンス」の認定をいただいた。

まちごとオープンミュージアムや草津橋の欄干の付け替えなどの行事や活動は会全体で行い、別途倶楽部単位の活動も行っている。

昔なつかし写真倶楽部、まちガイド倶楽部、御幸川生き生き倶楽部、IT博物館倶楽部、郷土史研究倶楽部、町屋倶楽部が活動中、一方で味わい倶楽部やしやぎり倶楽部は担い手が集まらず活動できていない。最近では広島工業大学の福田研究室の学生、広島国際大学の学生などが参加してくれている。今年度から懸案の焼き牡蠣提供が公民館祭りのできるようになった。会は、本日は活動資金確保のため公民館祭りに参加している。

1 後継者の不足

会のコアメンバーは20人程度で、地域の70歳代が中心、60歳代は若手で4~5人である。

まちガイドの後継者を育成するため、草津公民館の協力を得て草津まちガイド講座を開催、その後7人の方がガイドとして活躍を始めている。

オープンミュージアムなどのイベントの際には体協などに手伝ってもらうが、会の活動を考えると、まだまだ若手に参加してもらいたい。

2 行事のマンネリ化

この十年間を振り返ると、前半の5年間は新規の活動が増えていった。後半はそれらを継続してきている。

地域住民の間では活動の認知度はあがってきたが、一方では、物好きの活動とも言われてきた。

十年を迎えて、新たな活動も必要という意見が出ている。

例えば、草津橋に続いて、ガードレールを白から深緑にするなどの準備を進めている。

新しい行事の企画や実施は、メンバー補充との関係が深い。

3 女性の活動への参画

当初は地域の女性の参画があったが、忙しさを理由に出でこれなくなった。

しやぎり倶楽部がスタートしないのはそういった問題にもよる。

歴史の長い町では、決め事や集まりは男性中心という雰囲気になりやすい。

オープンミュージアムなどのイベントの際には地域の女性に手伝ってもらうがスタッフとして参加いただけない。

4 活動資金の調達

これまで、広島市西区役所の活動助成、町内会の寄付や広島市の基金フムフムの助成金などで運営してきたが、自立的に活動していくためには安定収入が必要となってきた。

草津まちづくりの会

http://www.west21.gr.jp/1nishiku/nisiku-file/m_menu/kusamachi-HP/index.html

御幸川生き生き倶楽部代表

郷土史研究倶楽部代表

藤井 秀昭

呉にぎわいプロジェクト実行委員会へのアドバイス

(社)広島県建築士会広島支部まちづくり委員会 細見 恵

イベントを通じての販促の相談ですが、イベントはあくまで認知してもらうことを最優先として考えなければと思います。むしろ重要なのは、消費者側に立って求めるものの先にあるものを汲取ろうとすることではないでしょうか？今日では何に興味を示し何を要求しているか、人によって様々で多岐に渡る上に本人も気付いていないところを見い出すことが必要です。それにはイベントの事前の仕掛けに工夫が必要で、主催者側の関係者のコミュニケーションが大事です。同じことを繰り返すのでは無く、様々な視点から積み重ねていくことではないでしょうか？

広島市市民局市民活動推進課まちづくり支援担当 山崎 学

私も広島の佐伯区コイン通りで地元の商店街振興組合の方と、もう12年お付き合いしていますが、同じ様な感想を持っています。

コイン通りでは約2年の準備期間の後、組合の関係者を中心に地元住民の方、地権者の方、学識経験者の方等が集まった「コイン通り街づくり委員会」を10年前に結成しました。毎月定例会を行っていますがもう120回になります。

この間、地区外の団体も参加する「桜パレード」、街路樹の杏の収穫を祝う「あんず祭り」、秋に行われる「金持ち祭」、造幣局周囲の水路にめだかやトンボの幼虫を根づかせた「春の小川復活大作戦」、などを実施してきましたが、組合の役員の方は別にして一般商店の方の意識は今だに高くないと感じます。イベントをしても儲からない、自分たちの力量はたかが知れている、まちづくりより日々の生活が先だ、このままではいけないと思っていても何かの行動を起こすというわけではない・・・。

コイン通りの12年間はこういう声を聞きながらそれでも走りつづけてきた年月でした。成果がどうだったかは良く分かりません。何もしないよりは良かったという程度かもしれません。悩みは尽きませんが、それでも何がしかの活動を行っていくということではないでしょうか。

(社)日本都市計画学会中国四国支部 山下 和也

Q 活動や悩み事を自分のこととして捉えていない。

来訪者だけでなく、自分たちも楽しみ、刺激を受けるようなイベントを工夫してはどうでしょうか。終わった後、お茶、ときには酒でも飲みながら、イベントの評価、反省点などを話し合う場を設けることも大切だと思います。

Q 売り上げの低迷に対し、自己の問題として捉えていない。

何事にも言えることだと思いますが、上手く行ったり、行かなかったりする要因は、外的な環境と同時に、内なることがあるはずで。

そこに気づくのは、失敗することが早道なのですが、立ち直れない場合も想定できるので、自分の創意・工夫・努力による(小さな)成功体験を積み重ねることが必要なのではないのでしょうか。

まずは、「隗よりはじめよ」で、信頼できる人と成功事例をつくってははどうでしょうか。

Q 郊外型大型商業施設とのハード面での格差への対応をどうするか。

ハード面・環境面では、大型店ではできない、安価だけどキラリと光る街(店)の「よそおい」を連携して生み出すことが考えられます。各々の店が、共通した素材とデザインをベースに、個性・独自性を発揮するような取組もあります。例えば、竹を使ったファサードのデザイン、花を取り入れることなど。

大型店ではできないサービスやもてなしも大切です。

通りや建物の大規模な改装などは、上記の取組を進めながら、中長期のビジョン・戦略の一つとして位置づけ、検討していくことになるのでは。

(社)日本都市計画学会中国四国支部 宮本 茂

1. 全体を通じた総括

準備への取り組み

・NPO住環境研究会ひろしまが参加する社会実験としてのイベントであった。NPOの構成メンバー

が広島市内拠点という中での取り組みであったが、実施まで十分な準備を周到に重ねて行われた。

- ・ N P O、行政、三和ストア、クレアル他 10 人程度の検討会議を数 10 回に重ねたことは十分に評価できる。
- ・ カメラマン、音響、会場設営など、N P O だけでは専門的な領域において対応ができなかった部分については、専門業者との連携することで解決が可能であった。

多様な主体の参加

- ・ 民間だけではできない行政の参加、N P O の参加、専門業者の参加、高校生の参加などが可能であり、十分に評価できる。
- ・ 特に、行政、学校、幼稚園などの参加を得られたことは大きいと考えられる。
- ・ また、クレアル側にも公益性、社会貢献といった新しい価値観での取り組みは、大きな資産になったと考えられる。逆に、N P O や行政にとっては集客力が十分ではなかったなど、参加者に十分に受けられたか、今後検証する必要がある。

クレアル全体への経済的効果、集客性

- ・ 経済的な売上げとしては必ずしも十分ではない。一部高校生元気祭りは過大な集客があったものの、総じて、予想の範囲内であった。
- ・ 準備他の対費用効果としては十分ではないと考えられる。
- ・ また、一部の集客は低価格での販売によるものであり、必ずしもイベント内容に起因するものではないなど課題が残った。
- ・ 一方で、同時に集客する場合の雑踏対策など課題も残された。

話題性

- ・ 地元新聞をはじめさまざまなメディアに取り上げられ、評価できる。
- ・ しかしながら、市民への集客の定着という意味ではまだまだ十分ではない。
- ・ 今後の定着化に向けた取り組みが必要である。

イベントとしての質

- ・ 催事としての質については、おやじバンド、高校生プラスバンドなど、ある程度高かったものと評価される。しかしながら、さらに集客や評価されるよう多様な出し物を工夫する余地があると考えられる。
- ・ 実施時間帯についても多様な形でセットしたものの、食事時間と飲食売上げとが比例しないなど今後の課題である。

お客さまへの告知

- ・ 通常の市広報、チラシ、口コミを中心に行ったが、さまざまな手段をもっと検証する必要がある。
- ・ 具体的には、高校生が参加することで両親、祖父母が参加する、目玉格安商品の集客が顕著など、予想に反する事例があり、適切な方法を検討する必要がある。

参加者の主体的な参加

- ・ おやじ、子ども、高校生の主体的な参画を想定したが、それなりの役割はみたものの、必ずしも十分ではなかった。幼稚園によっては組織的な対応がみられたものの、個人参加の園も見られたこと、高校生も生徒会有志の参加が中心であったなどの課題も残った。
- ・ 一定の組織や地域からの応援が不可欠であると感じられる。

先進性、ユニーク性

- ・ おやじ、子ども、高校生、家族連れなどの対象別に社会実験を重ねられたことは効果が大きかったと考えられる。
- ・ 特に高校生が中心となったイベントはこれまでに呉市で実績がないものであり、今後の可能性が期待される。

遊休施設の活用

- ・ クレアルの商業施設の屋上でのイベントであったが、やはり商店街の賑わいとやや離れた場所、アクセスしにくい場所であったため、市街地への活性化にはつながったとはいえない面もあった。
- ・ もう少し集客力などが必要であった。
- ・ 屋上施設であり、屋根がないため、機材利用が制限される、参加者への負担が大きい、主催者側の実施の判断が難しいなど、雨天、猛暑などの天候に左右されがちであった点は課題が残る。
- ・ 施設としても、消防法などの規制の関係から、火気厳禁などの制限はイベントに関しては大きな足かせになった。

中心市街地活性化という課題解決

- ・ 社会実験というささやかな取り組みであり、十分ではなかった。空き施設・空き空間の活用はどの商店街でも課題であるが、ある程度の可能性は示せたものの、集客力・継続性が重要である。

- ・販わい創出という視点からみると、クレアル単体ではかなり限界がある印象である。他のイベントの連携やさまざまなメディア、ツールを通じた販促活動などが欠かせないと考えられる。前売り券を販売する、クレアルの販促チラシと連携する、全店でセールを行う等である。

2. 個別イベントの評価

第1回 8月18日(土) 15:00~19:00 キッズ撮影会&幼稚園対抗ひまわりコンテスト

プロカメラマンによる撮影会、子どもによるひまわりコンテスト、ビアガーデンなど

- ・事前のひまわりが枯れて植え替えるなど、裏方の対応は大変であったが、概ね評価できる。子どもが多く参加したことは評価できる。
- ・屋上を継続的に開放するなど、子どもたちにとって、自分の庭として感じてもらえるような工夫など、今後の対応が課題である。
- ・子どもたちがひまわりの育成にかかわる事業であったが、保護者などに主体的な参加が十分に図られなかったことは課題である。自己責任で管理していただけるような、教育的な配慮が期待される。

第2回 8月19日(日) 16:00~19:00 おやじバンド演奏会

市内のアマチュアバンド(4組)による演奏会、ビアガーデンなど

- ・2日連続であったことなどから、集客力が今ひとつであった。出演者側の参加も突然の変更で十分ではなかったなどの問題があった。
- ・出し物としての質は十分に評価できるものであり、今後の継続性も考えられる。呉市以外からの広域的な出演者には驚かされた。
- ・今後は広島市内のバンドとの連携や多様なレベルの参加者などが期待される。
- ・設備としては屋根の設置など最低限の改修が必要である。

第3回 9月8日(土) 13:00~17:00 呉市立呉高等学校 元気祭り

呉高校生有志による演劇、展示など、ブラスバンドなど高校生によるミニコンサート

- ・集客の多さが特徴であった。開所前からの行列には目を見張った。商品の安さもあるが、高校生主体のイベントの可能性を感じさせるものである。
- ・高校生の文化祭的な雰囲気に参加者のほとんどが高校生と予想したが、結果は予想に反し、最も多様な客層であった。
- ・高校生としての学校をあげての、主体的な参加には課題が残った。

第4回 10月13日(土) 13:00~19:00 みんなのための「収穫祭」

市内で今年取れたての農産物の販売、加工、試食など

- ・予想に反し、集客という点では課題が残った。
- ・農産物だけで集客が可能ではないことが課題であり、魅力的な出し物を検討する必要がある。
- ・後半部分の酒類の販売などはお客の滞在時間の長さには貢献したと見られる。
- ・安直であったが、ビンゴゲームは比較的盛り上がる印象である。やはり小さな物欲と射幸心を満たすことが重要か。

(社)日本都市計画学会中国四国支部 長谷山 弘志

課題

- ・商店主等関係者が、イベントを自分たちのこととして捉えていないため、イベントによって人は集まっても、商業としての活性化に結びついていない。お客様に商品を買ってもらうためには、何をすべきか、何が不足しているのかという問題意識がないため、お店または商品の魅力が無いか、お客様に良さが伝わらない状態に対して、何ら対策を講じていない。

対策

- ・商店主等関係者を集めて、クレアル塾ならぬ勉強会、研究会等を実施されてはいかがでしょう。共通の課題、テーマに応じた講師を招き、講演会、事例視察、課題解決WS、研修会等を開催し、常に、顧客のニーズ、社会の変化に対応しながら、変化し続けられる魅力ある商店街を実現させるための運営体制を作り上げて行こうとすることが重要だと思います。根気よく続けていく、その課程の中で人材が育ち、組織が強くなり、バラバラではなく、力を合わせた商店街組織が出来上がっていくのではないのでしょうか。
- ・まずは、お客様の声を聞くことから始めて、魅力づくり、当該商店街で買い物をするメリットの整理、共通割引券や地域通貨などの仕組み・制度づくりなど、いろいろなアイデアを出し合い、実現させてください。

(社)日本都市計画学会中国四国支部 松田 智仁

松田は、呉にぎわいプロジェクトを社会実験として主催した NPO 法人住環境研究会ひろしまの会員であり、おやじバンド演奏会にスタッフとして関わりました。少なくとも商業ビル屋上鳴りものイベントとしては、おやじバンド関係者や友人、構えはビアガーデンと、客層と商品はマッチしていたように感じます。

一般的に、イベント連動型商行為については、イベントの企画に沿って事前の来訪者の方々の関心や購買傾向の分析が必要となります。来場目的に沿った品揃えはもとより、地元民であれば関心を誘導するなどの工夫、またビジター対象であれば、地域限定品の提供が重要となります。仕入れや店構えに影響することからイベントの企画段階から客層と志向をイメージしておくことが必要となります。

事例として、大和ミュージアムに来られる多くの観光客が、中心商店街に足を運んでいただけないとすれば、逆に人出がある場所へのコーナー出店、そこでの限定品アンテナショップなどの行動も手ごたえがあると思います。そこで情報を伝えて、足を運んでいただく工夫も必要です。

店主の意識改革は、すぐ隣で、ちょっとした工夫で儲かります、と見せなければ、遠くのこと、できっこないことになってしまい、緊張感や危機感は伝わりません。実の仕掛けはちょっとでないとしても、長年培ってきた価値観を見直すことは、おそらくどなたでも難しいことと思います。

郊外の大型店に対抗する商店街の環境整備については、商店街の皆さんが一斉に、店を改修し、商品構成を点検し、共同で街を管理していくことについて話し合いをされることがスタートと思います。常連さんの細かい声を聞いてみましょう。必ずヒントがあります。いわゆるお店は、路面店の対人販売ですから、ゆとりある店内空間を活用して、日替わりで献立を提案する、調理法方を教えるなどのスーパーマーケットではできないことがあると思います。セールをするなら同じ日に・・・協同広告、看板デザイン、自転車置き場、配達、お買い物ポイント、カード払い・・・、ひとつひとつ解決していくしかありません。公共空間を含めて商店街ごとが運命協同店の敷地と考えてはいかがでしょうか。高松市などの成功事例では、商店街経営の借地権型再開発商業施設に外部からマネージャーを招き入れることも行われています。

NPO 法人かみじまの風へのアドバイス

(特活)ひろしま NPO センター 中村 隆行

行政との関係について

ここ数年、行政サイドでは、「行政と NPO との協働推進」ということで、協働の指針やガイドブックを作成し、各部署に回覧させています。広島県、呉市、福山市、三原市、広島市などでも、指針・ガイドブックを作成していますが、各部署への徹底という意味ではまだまだ、浸透しているとは言えない状況ではないかと思えます。これからの行政施策にしろ、我々の生活にしろ、もはや、行政のみが、単独で進めていくことには限界があり、市民参画、NPO との協働はさけてととおれないものと思えます。松浦さんの指摘されるとおり、協働への温度差から、苦悩されておられる状況は理解できません。そこで、協働の担当課にまずアタックし関係部署につなげてもらう。

協働の指針をつくっているところであれば、指針を突破口に關係部署との協働を促進していくことが指針の実現になるということで、間接的ではありますが行政の協働担当部署に汗をかいてもらいましょう。

福祉や、環境、生活の安全、経済の活性化など多方面で協働の成果をあげている先駆的事例を行政サイドに情報提供し、担当部署に動機付けをしていく。

微力ですが、いろいろ情報提供できると思いますので、ご連絡ください。

活動資金

県でも検討にはあがっていますが、あまり期待できそうもありません。ひろしま NPO センターでも NPO の財政面での基盤強化が重要と考えていますので、県と協議してみましよう。

最近、コミュニティ・ビジネスということで、起業支援をする自治体が増えてきています。厚生労働省もいくつかの助成制度をもっています。それらを活用してみてもどうでしょうか。

その他

松浦さんの取り組んでおられる NPO の活動がこれからの地域の将来を大きく影響するものと思えます。火を消さぬよう頑張ってください。われわれも応援したいと思えます。

広島市市民局市民活動推進課まちづくり支援担当 山崎 学

広島では成果をあげられ、もう既に今後の方向も見出されているようですので、何も言えないというのが感想です。

その他でも書いておられる通り、行政との関係に見切りをつけて、自分たちがなんとしてもやりぬいていく道を見つけるということではないでしょうか。

(社)日本都市計画学会中国四国支部 山下 和也

行政の活動に対する理解不足、関心のなさ、主体性のなさをどうするか。

行政(大崎上島町)の発想や事業とは異なる視点から、小さくとも光る活動や成果などの積み重ねが行政の意識を変える住民・民間サイドからのアプローチではないでしょうか。また、マスコミを利用して、活動を取り上げてもらうことも一つの方法でしょう。

そうした取組を行いながら、関心や理解を示してくれる行政マンを少しずつ増やしていくこと。特に中堅・若手の行政マンとの交流は大切でしょう。10年後は、彼らが中心となる時代なのですから。時代は「協働」の流れなので、色んな提案、活動を積み重ね、住民、行政マンに何かやっている、けっこう成果が上がっている、等々、と意識してもらうことも大切でしょう。

活動資金の確保をどうするか。

県などにおけるファンドの設立の期待。

まずは、様々な助成制度、助成機関・団体を調べ、応募してみても。コミュニティ・ファンドで旅館を再生した例(島根県大田市の温泉津温泉)もあるので。

広島県や町の総合計画をみると、「協働」とか「まちづくり支援」などが明記されていると思えます。それを踏まえて(逆手にとって?)、財政支援施策を(懇懇無礼に?)提案することもあると考えます。

中山間地域における地域づくりをテーマとした NPO 活動の困難さをどう乗り越えていくか。

限られた人員と資金等で、まちづくりの幅広いテーマに対応するには、自ずと限界があります。NPOを支援するような人的なネットワークの構築、NPOなどの組織の連携が必要になるのでは。地域づくりを“地域のため”と捉える前に、「自分達がいかに心豊かに、気持ちよく暮らせるか」といった視点で、活動を考え、展開していくことも大切ではないでしょうか。島根県大田市の大森の「納川の会」は、そのような視点で活動を行い、極端に言えば「まちづくりが目的ではない、いかに私たちが気持ちよく暮らせるかが大切」ということです。また、広島市南区の「霞フラワーガーデン(街路用地の暫定利用)」の活動は、規約などはなく、「日曜日の9時に、参加したい人が来て作業する」ことが唯一のルールということ。まちづくりは、終わりのない営みのようなもので、目指すべきものや理念を持ちながらも、出来ることから工夫を重ねて取り組んでいくことが大切かもしれません。

(社)日本都市計画学会中国四国支部 宮本 茂

1. 行政との関係

- ・ 行政とNPOは車の両輪の関係ですので、どちらが先行するかは一時的な問題だと考えます。
- ・ 事実を先行させ、住民を巻き込みながら、動かし、行政を巻き込むといった方法と、活動に行政職員を巻き込む方法があると考えられます。

2. 活動資金

- ・ NPOの資金はどの団体もほぼ同様です。ご指摘のように、NPOが自律的な活動を行えるような財政的支援、財政的支援に対する住民理解、公益的活動でお金をもらうことへの住民理解などが必要です。
- ・ 行政に頼らず、NPOが民間から直接事業を受けるという形もあります。
- ・ NPOは多様な主体をつなげることが強みであり、この部分は公益的な役割が強くあまりお金が儲かりませんので、公益的部分とは別に、本業(別業)を確保することも必要だと考えます。

3. その他

- ・ 一般的には、行政は、NPOに対しては個人的にも精神的にもサポートしやすい形になってきていると思います。地域の人材では、行政職員はまたとない優秀な人材だと思いますので、積極的な協力・連携が必要だと考えます。

(社)日本都市計画学会中国四国支部 長谷山 弘志

課題1 行政との関係

- ・ NPO活動に対する行政の理解不足。

対策1)

- ・ 行政側がどのように対応して良いかわからないのか、それとも対立的な立場で構えているのか、行政が関心を示さない本当の原因は何かがよくわかりませんが、行政との対立的な構造を続けるのではなく、同じ方向・目標に向かって粘り強い働きかけや行政が取り組まざるを得ないような状況づくりを行うことも考えられます。

課題2 活動資金

- ・ 行政の資金援助が必要。

対策2

- ・ 様々な活動支援のための助成制度を活用されては、いかがでしょうか。具体的な制度の内容については、NPOセンターや各市町村などに問い合わせてください。また、活動テーマに合わせて、民間企業、財団等の助成制度もいろいろあると思います。

課題3 その他

- ・ 大学との連携を含め起業に向けての方向転換を図りつつ、地域の将来展望を念頭においたNPO活動をどのように模索していくか。

対策3

- ・ ご存じとは思いますが、人口2000人程度の中山間地域で地域の活性化と人づくりをテーマとして、「彩り農業」やまちづくり人材育成の「1Q塾」など個性的な地域づくりを展開している徳島県上勝町のまちづくりなどの事例を参考にされてはいかがでしょうか。

- ・ 参考になるポイントは、一つの課題についてみんなで知恵を出し合い、考え、解決していく独創的・戦略的な1Q手法で、「世界に誇れるまちづくり」を目指して推進しているところです。専門家をうまく招き入れて活用しながら、地域を担っていく人材を育成していくことが、組織づくり、地域づくりを進める中で、とても有効なことだということを示されていると思います。

(社)日本都市計画学会中国四国支部 松田 智仁

一般的に県の政策や県職員の意向は、市町村にとって相当大きな影響力があります。国県の補助金支給、各種法令に基づく許認可など多くの事務事業について権限や調整力を有しています。こうしたことから各市町村ともに県の政策には従いますので、独自の政策に充てることができる人や資金は限られてきます。さらに、日常的な事務事業に追われ自前の政策形成能力が育成されない傾向が強くなります。各市町共に、県の政策に各市町の現場に即した独自の色を付加して地域振興につなげていくことが求められています。このことを分かっていない市町の職員はいないと信じています。

かみじまの風は、独立した組織として既に組織的に活動されておられますので、今後は組織としての活動方針をどうされるかにかかってくると思います。私自身も小さなNPOの会員ですが、目的を共有できない者との協働はできません。少しでも共有できる部分があればその領域分のみを協働し、それ以外の活動領域は自らの独自の活動であるべきで、そういったことが団体の存在感であると思います。

ご承知のように公共サービスに近いNPO活動ではなかなか収入の道がないのが現実です。基本的には受益者からの拠出金や負担金によるべきですが、法令や親団体に守られて行う法人活動でない限り、いきなりそうした水準のサービスの提供はできませんし体制整備も不可能です。公的なファンドはあるにこしたことはありませんが、金利が低い時代での基金の創設、基金の拡大造成は地方自治体の政策判断となります。全国的には市町村税収の一部をNPO活動に振り向ける制度の創設も見られます。既に別のNPO活動の経験から収入の方法論はご承知のようですから、細かく申し上げることはありませんが、活動目的への賛同者や受益者から将来の期待値として資金調達する手法も意義深いと思います。小さなスタートでも住民ニーズにマッチすれば成長していくと思います。国内でも住民を株主とする株式会社で特産品販売収益を公共サービスに充てる例もありますし、ピッツバーグ市が有名ですが、アメリカではNPO活動が市行政に取って代わる事例も出ています。特殊な解ですが、社会貢献活動に関心がある企業や財団(その市町内にない場合もある)と組む道もあると思います。

株式会社吉田ふるさと村 <http://www.y-furusatomura.co.jp/index.html>

広島市中央部商店街振興組合連合会へのアドバイス

(社)日本都市計画学会中国四国支部 山下 和也

岡本太郎の「明日の神話」を起爆際に、現球場跡地の計画の再構築を図る可能性があると思います。原爆ドームの直近の位置、平和記念公園から伸びる軸線などを考えると、これからの時代は、現球場跡地において展示施設などをつくる場合、地上に大きな施設をつくることは、平和記念公園との関係や利用(活用)面としても、問題が多いと思います。50年、100年、それ以後にも耐え得る空間構成が重要だと考えます。

建物があっても良いと思いますが、基本となるのはまとまったオープンスペースと平和記念公園からの象徴的な軸線の確保が大切です。ハノーバー庭園、グリーンアリーナ(屋根の“ちょんまげ”)、基町高層アパートも、それぞれ別の事業で、時期も異なるにもかかわらず、軸線を意識しています。「明日の神話」をどこに置くかですが、ハノーバー庭園の辺りに展示施設を建てる場合、またはそこには原寸大の陶板で再現・露出展示し、本物は現球場跡地(展示施設)またはひろしま美術館の北(別館の建設)に置くことが考えられます。後者については、広島に誘致できなかった場合でも、対応(陶板で再現)できることとなります。

広島に「明日の神話」を誘致または展示(陶板)することは、西のピカソのゲルニカ(スペインのバスク地方の都市・ゲルニカに陶板で展示、本物はマドリッド)、東(広島)の岡本太郎の「明日の神話」として、20世紀の負の遺産を最も象徴的に伝えることとなります。これだけでも多くの人を呼ぶこととなります。

また、このことは、大阪万博の丹下健三(お祭り広場)と岡本太郎(太陽の塔)のコラボを、21世紀の広島で再現することでもあります。

150万人の集客ですが、「明日の神話」のある象徴的な軸線とオープンスペースを利用し、様々な催しなどを行えば、軽く突破すると考えます。フードフェスタは2日で70~80万人、島根県の物産展も20万人近くが来ていると思います。それに比べ、カープの入場者数は、市民球場だけなら、年間80万人(他都市での主催ゲームがあるので)ぐらいでしょう。

市民などが空間を使いこなす上からも、オープンスペースの意義はあるでしょう。

さらに言えば、歴史の重層する空間も魅力です。戦前と被爆の象徴としての護国神社の鳥居の元の位置への移設(現在はRCCの前)、市民球場の一部保存・活用などもおもしろいのでは。

こうした案は、優秀案の「水な都・マザーズステージ」では、取り入れることが可能と考えます。

(社)日本都市計画学会中国四国支部 宮本 茂

・都市計画や手続きの問題を別にすれば、都市のサービス産業を賑わう方法に基本的には賛成です。

・以下個人的な感想です。

(1)市民球場跡地地区が持っている特性に関わる問題

平和公園に隣接する地区であるものの、跡地の有効利用を図るべき地区であること

・当地区は、平和貢献に隣接し、建築家故丹下健三氏が強調したように、平和公園、原爆ドームと連続する軸線上に位置しています。しかしながら、可住地に恵まれない広島市の貴重な空閑地であり、周辺が河川空間・堤防空間に恵まれていることから考えれば、むしろ貴重な建べい空間であると考えられます。

・市民提案でも4番目と低い順位である「平和発信機能」については、12.2haを占める、既存の平和記念公園の機能強化が適切であると考えます。

(2)広島市都心部の再編強化に関わる問題

中国四国地方の中核管理都市広島市の都心部の一部であり、都心機能の拡大充実を求めていく地区であること

・ひろしま都心ビジョン(平成17年2月)において、広島市の都心として位置づけられています。その都心部において、広島市の中核管理機能が低下しつつあり、都心就業者数が減少しつつあり、広島市の都市戦略において、都心部を強化していくことが急務になっています。

都心の商業・娯楽機能の再編が急務となっていること

・新球場を含む広島駅周辺、再開発が進む段原地区を含めて、当地区は都心部の一部を形成していま

すが、現在本通商店街を含む中心部は、コンビニ、携帯電話店、ファーストフード店が増える一方、郊外の大規模小売店と競合するなど、中国地方の顔としての都心商業機能が弱体化してきています。

- ・ 広島市民球場の年間集客数は100万人、原爆資料館120万人、宮島観光客数120万人程度となっていますが、原爆資料館のような通過型・立ち寄り型観光客数ではなく、時間と額を消費していただける機能の強化が必要だと考えます。

オフィス機能など広島市の人口の社会増につながる機能の強化が必要であること

- ・ 「中国地域経済白書2004」 都心再生と都市型産業の振興（2004年8月、中国総研）では、広島市から過去5年間で都市型産業の従業者数が1万人減少し、全国の主要39都市の中で最大の減少です。一方で、大規模跡地や公共用地の払い下げ地で過剰な分譲マンションや、ビジネスホテルが急増するなど、かつての就業者の受け皿が低下しているのが現状です。
- ・ また、瀬戸内海の気候やデルタの水と緑に恵まれた環境など、広島市らしいライフスタイル、ワークスタイルを創出する空間もほとんどない現状があります。

(3) 都市構造上の問題

限られたデルタ市街地の有効活用、都心部の高度利用が急務となっていること

- ・ 広島市は市域面積に対する市街化区域面積比率が20.6%と政令指定都市の中で最低となっているなど、ほとんど可住地がないのが現状です。さらには、環境都市として、コンパクトシティが実現されていることや、河川や堤防空間、周囲の青垣山など緑や空閑地に恵まれています。
- ・ 今後も広電をはじめ市内電車やアストラムライン、LRTなどの検討が進み、人に優しい、日常的に市民が集まり・交流しやすい都市・都心部としての整備が求められています。このため、オープンスペース機能ではなく、交流・都心機能の整備が強く求められています。

ひろしま都心ビジョンに示された都心部の一層の機能強化が求められていること

- ・ 現状では、ひろしま都心ビジョンに示された「広島市の都心」に位置する、広島大学本部跡地、広島駅前Bブロック、広島駅北口開発では、確実な需要が見込める分譲マンションが中心となっています。分譲マンションは大部分が市内の住み替え需要であるとみられ、かつ世帯分離や団塊の世代も多いとみられ、必ずしも広島市の活性化につながるとは考えられません。
- ・ 広島市の広域的で潜在的な需要を掘り起こし、吸引する都心部機能の強化と、そのための市民球場跡地の利用案が求められていると考えます。

(社)日本都市計画学会中国四国支部 長谷山 弘志

課題

- ・ 広島商工会議所等と連携し、広島市に、広島市民球場跡地の利用計画を都心コア活性化に資するものに変更していただくために、どのような取り組みをすればよいか。

対策

- ・ 市との対立的な構造を続けることを一旦中止し、同じ方向、目標に向かって話し合いによる双方の歩み寄りができるような状況をつくるのが、必要なのではないのでしょうか。相互の共通点や相違点を明確にしながら、どちらかの意見、想いだけが100%という状態ではなく、双方の想いが実現できる方法を探っていく姿勢が大切なのではないのでしょうか。
- ・ 市民アンケート、署名などによる市民の声を広島市に届けることも、有効な手段かもしれません。

徳島県建築士会青年部ひょうたん島・景観まちづくりチームへのアドバイス

(社)広島県建築士会広島支部まちづくり委員会 細見 恵

は学生や一般市民の参加が少ないという悩みですが、これは何処にもある悩みの1つでしょう。強烈な色の建物ができるとか切迫した要件がないとなかなか一般の人が景観に興味を持つことは難しいのは確かです。また、何かメリットが無いと若者は参加しないのが現状です。そこで屋外でのワークショップでは副産物が重要です。何か得るものがあること、楽しめることをアピールすることだと思えます。

たとえば山のセミナーをやっていますが、歩いて山林の現状を知ると同時にそこで笛や音楽を聞くことで、自然の中で普段と違う音を感じることができます。山林の重要性を肌で感じられます。また、専門家に話を聞きながら鳥の観察をすることもやっています。ゆっくりした時間を過すとか、新しい体験をするとか普段できないことを盛り込むことが大事です。

小・中学生を対象にしたワークショップ

子供達を対象にする場合はやはり親と一緒にものづくりをするワークショップが一般的です。広島県広島支部女性部会では「親と子の建築講座」「親と子の隠れ家づくり」や高齢者といっしょに「住みたいまちづくり」など身近な材料を使っただけのワークショップを行っています。ものづくりの楽しさや生活の知恵を伝え、両親や祖母祖父とコミュニケーションを計る良い機会になりました。他県ですが、子供達中心にまちに役立つものたとえばベンチなど毎年違うものをつくるワークショップをやっている熱心なところもあります。

いきなりものづくりは材料や場所等準備が大変なのでまずは「まちあるき」はどうでしょうか？

熊本の例ですが、

「建築と子供達チャレンジ講座」として

第1回まちのやさしさ探し～小学校3年生とのまち歩き～をA～Eコースのグループに分けて半日がかりのワークショップをやっています。グループ毎にコーディネーターがついて誘導しながらまちをあるいて、やさしさを見つけたり、困ることに気が付いたり歩いた後でグループ毎の話し合いをして模造紙にまとめて発表するというものです。もう少し学年が上ならマップづくりなどもできると思います。学年に応じて内容も変える必要はありますが、何回かテーマを変えて、スケジュールを決めて定期的に行っていくとレベルアップできます。

子供達は子供会や特定の学校のクラス単位を対象に呼び掛けて課外授業の一環として進めるのが良いと思います。

(特活)ひろしま NPO センター 中村 隆行

若者の参加を推進するには

県内では、広島工業大学、国際大学、呉大学、修道大学、尾道大学、福山大学などの学生が中心に地域の活性化につながる取り組みを初めておられます。それぞれの大学で学生を指導されている担当の先生がおられますので、一度、取り組みなど聞かれてみてはどうでしょうか。私自身が関わった学生さんとのつながりの経験からは、学生さんの興味や勉強につながる分野や視点を聞き出し、学生にもその活動に取り組むメリットがあるという動機付けをしていく。企画から実施まで、まかせてみる。当然フォローアップは必要です。メディアに取り上げてもらい、達成感を学生にあじわってもらえるよう工夫する。

なかなか大変ではありますが、次のまちづくりの担い手を育てるためにも頑張ってください。

広島市市民局市民活動推進課まちづくり支援担当 山崎 学

について

いろいろな活動をしている中で、必ず出てくるのが若者参加、子ども達への望みです。もう、飽きたな～というのが正直なところ。若者が参加して、さらに主体的に活動してくれることが理想形かもしれないませんが、そうでなくてもいいんじゃないかと思えます。今のところ困っていません。

例えば、水上タクシー運航を行うNPO法人「雁木組」では、漁業組合とタイアップして幼稚園児にし

じみの放流をしてもらいます。でも、年に1回のことであり、何かしら彼らの成長に役立っているかどうかは分かりません。また、ある大学の美術部の子達が雁木組応援隊「ガンギーズ」を結成しチラシの作成やポスティング、陸上支援の手伝いなどをしてくれましたが卒業すると活動は休止状態になりました。

五日市のコイン通りでは地元の大學生が折に触れて手伝ってくれたり、彼らの勉強のために、コイン通りを活用しているいろいろなプロジェクトをやっていますが、卒業しても手伝ってくれる子はいません。また、地蔵祭を去年から行い子ども達に参加してもらっていますが、今のところお客さんとしての参加です。

若者参加や子ども達への期待、この命題はそれほど重要でしょうか。今後もオファーは続けていきますが、できる範囲でいいと思います。この命題がうまくいっていなければ活動自体が低調であるとか、レベルが低いとかは思いません。そんなもので評価されてたまるかだと思います。

について

このワークショップ自体の目的や今のやり方がわからないのでなんとも言いようがありません。最近ワークショップについては疑問を感じているところがあり、回答不能です。申し訳ありません。

私の疑問は、ワークショップの開催そのものを目的にしているのではないかという感じを受ける場合がある。相変わらず、出てきた意見の行方がどうなるのか、最終的に誰が決定し、責任を持つのかがあいまいなものが多い。と感じているからです。

について

そうは言ってもなかなか思い通りにならないというジレンマがあるというご相談なので、おそらく成功しているであろう例をご紹介します。

「京橋川かいわいあしがるクラブ」という団体は広島市の白島というところの川原を使って、葦舟を作り川に浮かべるなど、子ども達に環境への関心を持ってもらう活動をされています。毎回カフェテラスも開催するので私もしょっちゅう参加していますが、近所の子も会や町内会などのコミュニティ組織や公民館や区役所との関係を良好にして連携して活動しており、いつも参加人数が多いのに感心します。子ども達自身自らが体を動かし、食べ物も必ず用意しています。カフェテラスも小学生の女の子達が自分たちでコーヒーをたて、お運びもしてくれます。私が欠席すると責められるくらいです。一度クラブの方とコンタクトを取られてはどうでしょうか。

(社)日本都市計画学会中国四国支部 山下 和也

参加者の年齢層の偏り、若い世代の参加の少なさを、どのようにしていくか。

景観を、建物やオープンスペースなどのあり方だけでなく、楽しむこととしても捉え、そうした観点からのイベントなどを開催することも考えられます。例えば、リレーイベントとして、眉山の見える景観一番の水辺の発見コンテスト、「自分の一番」エリアでの楽しみ方提案イベント、楽しみ方の発信、日常的・定期的な空間活用など。

マスコミの活用や広報紙への掲載なども期待されます。

市民が参加する(したくなる)ワークショップとするためには、どうすればよいか。

アイデアや提案を形にし、公開し、具体的な動きにしていく、さらには一つでも実現させていくことが大切だと思います。また、その過程では、参加者それぞれの個性や能力を引き出し、イメージ図や模型をつくることなども効果的でしょう。

ワークショップを一過性で終わらすのではなく、対象や参加者などをフォローしていくことも大切です。

子ども達を対象としたワークショップは、どのように行えばよいか。

広島で取り組んできた「親と子の建築教室」などが参考になるのではないのでしょうか。

(社)日本都市計画学会中国四国支部 宮本 茂

- ・ 参加者が偏るのは仕方がないことだと考えます。ある程度継続の中から、参加者の拡大や年齢層の拡大を目指していくべきだと思います。もちろん大学との連携なども考えられます。
- ・ 市民の参加者が少ないもの同様です。テーマや内容を一般市民向けに行うことが必要です。
- ・ 小中学校は総合的学習の時間、子ども会行事などと連携することが必要です。学校、PTA、子ども会など保護者の協力・理解を得ることが必要です。ここでオーソライズされていることで集客が期

待できます。

- ・ 継続参加のためには保護者が参加させたいと思わせることが必要で、学校、プログラムなどといった継続させるための工夫が必要だと考えられます。

(社)日本都市計画学会中国四国支部 長谷山 弘志

課題 1

- ・ 参加者の年齢層が、50代、60代の中高年に偏り、10代20代の若者がほとんどいない。若者に景観・まちづくりの魅力を知ってもらい、積極的に参加したいと思ってもらうにはどうすればよいか。

対策 1

- ・ 若者が感じる、集まる魅力とは何か。やり甲斐、使命感、役割に対する満足感が得られているのか。いつもは生活費を稼ぐためにアルバイトをしている時間を削ったり、お金を出してでもそこに参加したいぐらいの魅力がそこに存在しているのか。などの視点で考えてみることも必要かもしれません。例えば複数の大学の交流の場であったり、ここでしか出会えない人がいるところであることも、大きな魅力だと思います。また、子どもたちを中心にしたWSを開催して、一緒に遊ぶことも有効だと思います。

課題 2

- ・ 景観ワークショップへの参加者の大半が専門家で、市民の参加者が少ない。もっと気軽に参加してもらうためには、市民にどのような働きかけをすればよいか。

対策 2

- ・ 専門家の多い都市部ではよくありがちなパターンではないでしょうか。広島でも、このようなことには、気をつけなくてはならないかもしれません。基本的には、専門用語を多用することは避け（どうしても使わざるを得ないときは、解説する）、一般参加者を主体に進めるように心がけることが必要ではないでしょうか。
- ・ 専門家はあまりしゃべりすぎず、アドバイザーとして参加するほうがよい場合もあると思います。
- ・ また、次の課題となっている子どもを中心としたワークショップは効果的だと思います。

課題 3

- ・ 小中学生を対象としたワークショップをやりたいが、どのように進めればよいか。また、どのような経路で小中学校に協力を求めればよいか。

対策 3

- ・ こども向けのネーミングを考える。（ひょうたん島クラブなど）
- ・ 私が個人的に関わっている「松山こども夢ひろば」の活動を紹介しますので、参考になれば幸いです。
- ・ 協力要請は、県・市の教育委員会を通じてお願いしたり、各学校長に直接連絡したり、PTA会長や保護者を通じて学校関係者にアプローチしています。
- ・ また、人数限定、期間限定でチラシを各学校に配布したり、会員やスタッフにはメールで配信しています。（案内ちらしを添付しておきますのでご参照ください。）
- ・ スタッフは、地域の高齢者、保護者、大学生、大学OB、高校生を中心に、アドバイザーとして大学の先生やコンサルタント等の専門家が加わり、年齢層は縦につながるように心がけています。ただし、メンバーの固定化はしにくく、特に、コアメンバーは限られており、実施体制にはいつも苦慮しているのが実情です。

(社)日本都市計画学会中国四国支部 松田 智仁

若者のまちづくり活動への参加促進

まず、まちづくり活動ですが、松田は、「何時、何処で、誰が、何を、何のために、どうやって」を整理することにしています。例えば川側対岸の景観を向上させるためにあまりデザインの良くない建築物を目隠しするために木を植えるとしたら、景観評価作業に若者が一部参加する必然性はありますが、それ以外の部分での必要性は低くなります。何のために若者に参加してほしいのかをあらかじめ整理し、募集してみて、少ない参加者からどうすれば多くの若者が来るようになるのか

を聞いてみるという基本路線が画けると思います。

その上で、若者をまちづくり活動に巻き込んでいくには、募集段階から単なるお客ではなく、出番や役割を設定し、達成感を感じていただくことが大切と感じています。企画段階から誘ってみてはいかがでしょうか。運よくまちづくりのテーマに沿った大学のゼミがあれば、ゼミごとお願いすることもできます。

ワークショップへの市民の参加促進

多くの市民に景観をテーマとするまちづくり活動に参加いただくには、まず、市民生活に身近なテーマ、「おしゃれなお店探し」、「落ち着くスポット発見」(若者向け)あるいは、「知らなかった街の歴史探し」(高齢者向き)などを掲げ、そうした入り口から、まちづくり、景観へとつなげていくと入りやすいと思います。人口母数の大きい都市では、一定の関心層があるため、特別の配慮がなくても、ある程度の比率の市民参加を得ることができる可能性があります。景観をテーマにする場合は、当初から、「まち歩き」を入れておき、学習後に再度現地調査を入れることで効果も計れます。

当初の参加者募集では、案内チラシに写真やイラストを多用して楽しそうな演出が効果があります。あるいは、事前に地元の新聞や情報誌に取り上げていただく(二日前)などの工夫が効果的です。

例 広島市新・水の都構想策定ワークショップ <http://www.c-haus.or.jp/eveyotei.html>

子どもたちとのワークショップ企画

小学校などの総合的な学習の時間に、町のことを児童に教えてほしいと、学校から地域のまちづくり活動団体に依頼があるケースがあります。松田所属の草津まちづくりの会では、まちガイド倶楽部に江戸期からの歴史の街並みを残す町歩きガイド、御幸川生き生き倶楽部に、源流探検や水質調査など環境学習の依頼があります。広島市内では、可部カラスの会も同様です。

会から学校に持ちかける企画がある場合には、校長先生を通すようにしています。

http://www.west21.gr.jp/1nishiku/nisiku-file/m_menu/kusamachi-HP/townguide.html

http://www.west21.gr.jp/1nishiku/nisiku-file/m_menu/kusamachi-HP/miyukigawa.html

<http://www.megaegg.ne.jp/kabekarasu/katsudo/katsudou.htm#f>

また、広島市内には、大学の研究室の企画事業として、子どもたち(大人のチームもあります)に景観評価をしてもらうワークショップを毎年続けている事例があります。広島大学大学院工学研究科社会環境システム専攻建築意匠学研究室(千代章一郎ゼミナール)のエコピースマップのワークショップで、広大付属小学校の児童を対象とし、企業の協力も得て実施されています。

ひろしまエコピースマップ <http://home.hiroshima-u.ac.jp/ecopeace/>

草津まちづくりの会へのアドバイス

(社)広島県建築士会広島支部まちづくり委員会 細見 恵

女性の参加について、女性の社会活動への参加は受身型になります。老人の世話、子どもの世話などに追われがちです。このため、来れる時に来てくださると伝えておくことが大切です。

また、手伝いでも、任せきりでもなく、いっしょにやりましょうという姿勢で誘えば参加しやすいという経験です。

(特活)ひろしま NPO センター 中村 隆行

後継者問題

どの団体も、抱えている問題ですね。人材の層の厚い団体であれば、活動している人の中から、プロジェクトをまかせたりすることで、人材を発掘育成していくことは可能でしょう。しかし、多くの団体が、多くの人材に恵まれているわけではありません。いくつかのプロジェクトを用意し、関心のある人を巻き込んでいく。一本釣りする。私どもの団体も同じような悩みを持っていますが、さかのぼって考えると、私たちの活動が魅力的な意義のあるものかどうか、ミッションにさかのぼって考えることが必要なのではと考えるようになりました。人が参加しないには原因があるはずで、その原因を取り除いていかなければ人は集まらないし、育たない。組織のマネジメント(人のマネジメント)が問われています。リーダーには、専制型、放任型、協働型、調整型 いろいろなタイプがあります。それぞれのタイプによって、集まってきている人にも役割が異なってきます。組織を引っ張っていく人には、パッション熱意とミッション使命が必要ですが、頑張りすぎて燃え尽きてしまい、団体が継続しなくなる場合も多々あります。ここは、原点にもどって活動の目的や意義を見直しましょう。燃え尽きないようやっつけていきましょう。活動に共感をもつ人が出てくれば、後継者問題も解決の糸口につながるはずです。まずは小さなボールから投げ、返ってきた成果を評価してみると、活動している人に達成感が生まれます。その人たちが楽しんで活動してくれるようになれば、その人たちが次代の後継者となってくれるはずです。

資金問題

会費収入 寄付集め 助成金 事業からの収入(直接の事業収入、バザーなど事業の直接収入ではない間接収入) 委託 など資金を調達する方法が大きく分けて5つあります。それぞれ長所短所があります。集め方にも工夫がいらします。会費収入には新規の会員募集と継続会員による会費収入とあります。どちらも、活動の意義がわかりやすく、目的に共感できる内容かどうか、が会費収入増へのポイントでしょう。そのためには、マーケティングの手法をもちいて、ニーズをはっきりと掴んでいるか、わかりやすい、パンフや趣意書をつくるなどの道具も必要です。

寄付集めも大変ですが、これも会費と同様、共感できるミッションかどうかに尽きます。助成金申請には書類の書き方等ポイントがあります。助成財団などの情報を収集してみましょう。事業収入をあげていくには、しっかりした、事業計画と遂行体制を考えることが重要です。

「ひと、モノ、金」は、まちづくり団体に共通する悩みです。ひろしま NPO センターでは、NPOの基盤強化のため、情報提供、人材育成、資金提供(ろうきん寄付システム、NPO 活動奨励賞、NPO サポート助成) 共同事務所提供、政策提言、ネットワークづくりなどに取り組んでいます。ご活用ください。

広島市市民局市民活動推進課まちづくり支援担当 山崎 学

若手の参加については、草津小学校にも「親父の会」があるはずなので是非声をかけてみてください。

女性の参加については、参加いただけなくても粘り強く声をかけ続けることです。

(社)日本都市計画学会中国四国支部 山下 和也

後継者については、イベントの参加者に声をかけ、行事を手伝ってもらうようにしてはどうでしょう。

活動のマンネリ化については、三次市、浜田市などかつて交流があった地域と新たに交流行事を始めてはどうでしょうか。これらは、イベント化すれば、収益にもつながります。

(社)日本都市計画学会中国四国支部 宮本 茂

後継者については、地域活動が主体で、地域にたくさん住民がいるのですから、行事のPRや誘い方の工夫でいくらでも育つはずで。

女性の参加については、経験では、一般的に女性の方は、よくしゃべる、よく食べるで、そうした話題を提供していくことがヒントになると思います。

(社)日本都市計画学会中国四国支部 長谷山 弘志

後継者の育成については、大学生や中学生などにも声をかけ参加を促し、役割を与えることが大切で、役割があれば続いて参加するようになる。

(社)日本都市計画学会中国四国支部 松田 智仁

松田は、草津まちづくりの会のメンバーであり、相談日当日寄せられた藤井様からの相談内容を含む会の活動懸案事項については、自らの問題として感じており、共に悩み、共に解決に向けてささやかな実験を試みてはいる。

後継者の不足について

「まちづくりは人づくり」からと思います。ワークショップに集まる人たち、つまり町の人(土の人)に、大学生や地区外の応援者など外の人(風の人)を交えながら、一緒に学習し、活動を体験していくことで、1000年の歴史がある草津町の新しい「風土」が織りなされていくと思います。

風の人と土の人・・・草津地区の文化的資源をどのように保全していくか、また、時代に適合させながら継承していくかを、住民の皆さんが、また草津に心寄せる人達が真剣に考え、そして楽しく実行する時代が来たように思います。地域住民と地域外のファンとの協働、つまり、目的を同じくするもの同士のテーマ・コミュニティの興隆も望めます。

とりわけ、都市計画や街づくりの専門知識がある方は、地域住民が今考え、取り組むべきことのヒントが得られるよう、近未来の市民生活像を描き、伝える能力があるはずで。また、ビジネスノウハウがある方は、地域の資源を生かした、地域の生活文化となっていくようなソフトなデザインの仕掛けを提案できます。

壮年・・・息子や嫁がいらっしゃるはずですが、草津地区の若い世代のスタッフ参加がほとんどありません。住んでいるまちをよく知り、可能な限り関わっていただくことが必要なのですが、古い町ほど、50代ではまだまだヒョッコ扱いされるし、そもそも若い人は忙しいのでしょうか？ 節目節目で、まちづくりの会への参画を呼びかけると同時に活躍の場を用意することが大切です。

大学生・・・常時参画でき活動できるよう場や役割分担を用意してあります。広島工業大学の福田ゼミの学生さんは入れ替わっていきますが、先輩からの流れだけでなく、目的意識を持っていたくとさらに自分自身の糧になると思います。

入会呼びかけ用のチラシを作成し、行事の際には常に準備しておき、行事参加者に、草津まちづくりの会への参画を毎回呼びかけましょう。

行事企画のマンネリ化について

現体制では、現行の年間行事を消化することで手一杯。行事の目的は主催者側の思いだけになりがち、まちづくりの5W1Hの整理が常に必要で、イベントを通じて何を伝えたいのか、あるいは何を得たいのか、確認してスタートする必要があります。新人も募り、新規企画も話し合っはじめましょう。

もう一度、草津まちづくり学校の時のような参加者募集形式のまちづくりワークショップを開催し、会の次の5~10年単位の活動方針を練ってみましょう。この活動方針を、広く地区内外に参

加者も募りながら順次実施していきましょう。地域(参加しない方々)にも活動方針を公表し、実践しながら、参加者も募集します。また、活動方針も3...4年周期で見直していきます。

オープンミュージアムについては、枠を設けて、学校や地域団体と組んでいく企画(展示や販売のブース確保など)も必要と思います。行事参加者にアンケートをお願いし、次回企画の参考にすることもできます。八幡さん(八幡神社の秋祭り)のプレ祭りとして定着させましょう。

町屋倶楽部の活動については、可能であれば、壊されていく家屋について記録保存も重要ですし、将来の街並みなどについて「建て替えるならこういうイメージに」という意見を引き出す意見交換も必要と思います。次のマンション問題が起こる前に、居住環境維持の観点から、地域を挙げて高層マンションを規制する可能性があるのであれば、高須地区のように「地区計画制度」が活用できます。制度の勉強をしながらエアコンの室外機の木製カバーの普及促進や電柱の茶色化などを進めましょう。

大門の復元や御幸川沿線の美化はこのまま進めていきたいと思います。

女性の活動への参画

年齢を問わず女性の意見は新鮮で、これからの市民主体のまちづくりには女性の積極的な参画は不可欠です。歴史ある町ほど男性社会が確立しており、女性に加わっていただくには、ご夫婦参加や嫁参加、会議や行事に出やすい環境づくりや声かけなどが必要です。

未結成の「しゃぎり倶楽部」や「味わい倶楽部」については、あせらず、今後どういう条件が整えば立ち上がるのか意見交換してみましょう。

活動資金の調達

草津地区は、「はだしのゲン」など映画撮影の舞台として2回、地元テレビの取材は頻繁に行われています。草津の資源のすばらしさや、外からの関心を活かして、人を呼び、物やサービスを売りましょう。

当面は、建築士会など各種団体や企業の団体活動補助金をいただき、その間、草津まちづくりの会の「小物名産品」アイデアを募集し、作成し、販売しましょう。

さらに、牡蠣のイベントを成功させ、毎年安定収入を得るようにしましょう。

半日「街づくり悩みごと相談所」七人衆プロフィール

(特活)ひろしま NPO センター 常務理事・事務局長 中村 隆行
(社)広島県建築士会広島支部まちづくり委員会委員 細見恵
広島市市民局市民活動推進課まちづくり支援担当課長 山崎 学
(社)日本都市計画学会中国四国支部会員 山下和也、宮本茂、長谷山弘志、松田智仁

【担当分野】

課題分析・類似事例検索、アドバイスレポートまとめ・・・都市計画学会
組織基盤強化、財源確保、経理指導等アドバイス・・・ NPO センター、広島市
建築関係法解説、合意形成誘導、人材育成等アドバイス・・・建築士会、広島市

(社)広島県建築士会広島支部まちづくり委員会



細見 恵(ほそみ・めぐみ) 広島県生まれ。広島大学工学部建築学科卒。東京大学生産技術研究所・原研究室にて東欧・中近東及び日本の島や農村の集落調査に参加。1983年建築設計事務所「アトリエトライアウト」設立。広島工業大学非常勤講師(1999～)、広島女学院大学非常勤講師(1997～2006)。広島街づくりデザイン賞、IIS デザイン賞、他。住宅を中心として、周辺環境とともに生きる力となる建築、住まいづくりを実践している。また可部のまちづくりなど街づくり活動支援に参加。(社)日本建築家協会、(社)日本建築学会、(社)広島県建築士会広島支部まちづくり委員会に所属。一級建築士、登録建築家、広島市佐伯区コイン通りまちづくりデザイン委員会委員。趣味は茶道。

(特活)ひろしま NPO センター



中村 隆行(なかむら・たかゆき) 広島県生まれ。広島修道大学大学院法学研究科修了(法学修士)。専門学校講師を経て、1997年ひろしま NPO センター設立に参画、常務理事・事務局長。広島県 NPO 行政協働推進検討委員会委員、広島県平和貢献ネットワーク協議会幹事、広島市水の都推進委員会委員、広島市街づくりデザイン賞選考委員会委員、広島市男女共同参画審議会委員、食農あり方検討委員会委員、広島市社会福祉協議会地域福祉推進5カ年計画策定委員会副委員長、呉市市民協働検討委員会副委員長、三原市市民協働検討委員会部会長他。広島経済大学、呉大学、福山平成大学、非常勤講師。NPO 基盤強化のため

中間支援組織として、NPO 設立支援、マネジメント相談、人材育成セミナー、政策提言などに取り組んでいる。趣味は、日本酒を楽しむ会での日本酒酒文化の普及。

広島市市民局市民活動推進課



山崎 学(やまさき・まなぶ) 広島県生まれ。九州芸術工科大学芸術工学専攻科卒。広島市市民局市民活動推進課まちづくり支援担当課長。都市計画課で住民によるまちづくり活動の支援業務を担当した後、公私共にまちづくり活動に関わる。1995年に広島市内でカフェテラス倶楽部を結成し、カフェテラスの普及とより自由な公共空間利用の実現を目指して活動している。2000年に「公共空間活用への一連の取組」で他団体と共に、第1回JUDI優秀賞受賞。「コイン通り街づくり委員会」等で地元のまちづくり組織を指導・応援しているほか、水上タクシーを運行するNPO法人「雁木組」、ボランティア・シティガイド「ひととき」、基町ポップラ通りの緑地を管理者と協定を結んで管理する「ポップラペアレンツクラブ(PPC)」、「ひろしま路上観察倶楽部」等で活動中。専門は、まちづくり市民活動、都市計画。一級建築士、(社)日本建

築学会などに所属。趣味は茶道。

(社)日本都市計画学会中国四国支部



山下 和也 (やました・かずや) 島根県生まれ。広島大学工学部建築学科卒。建設コンサルタント会社「地域計画工房」取締役。被爆建物の実態調査を続け、広島市が1995年に刊行した写真集「ヒロシマの被爆建造物は語る」の編集、2006年「山下和也・井手三千男・叶真幹著 ヒロシマをさがそう --- 原爆を見た建物」を出版。業務では、都市計画、総合計画の策定のほか広島市南区大河地区のまちづくり誘導、広島市東区牛田地区まちづくり参加、広島市佐伯区石内地区のまちづくり支援など。技術士(都市及び地方計画)、一級建築士、(社)日本建築学会、(社)日本都市計画学会などに所属。趣味は陶芸。



宮本 茂 (みやもと・しげる) 愛媛県生まれ。名古屋工業大学工学部建築学科卒業。社団法人中国地方総合研究センター 企画部長、主任研究員。NPO ひろしま住環境研究会副理事長。技術士(都市及び地方計画)、一級建築士。(社)日本建築学会、(社)日本都市計画学会、(社)都市住宅学会などに所属。専門領域は、地域計画、地域活性化、地域政策など。まちづくり研修講師多数。著書「地域新生のフロンティア」(大学教育出版、共著)他。中国新聞論壇への投稿など。趣味は自転車(ポタリング、輪行、ヒルクライム)。



長谷山 弘志 (はせやま・ひろし) 広島県生まれ。広島工業大学工学部土木学科卒。(株)荒谷建設コンサルタント コンサルタント部次長・地域計画担当。技術士(都市および地方計画)、(社)ランドスケープコンサルタンツ協会、(社)建設コンサルタンツ協会中国支部、(社)日本都市計画学会中国四国支部などに所属。松山市で市民参加のまちづくり活動やイベントなどをコーディネート。業務では、住民参加の公園・道・川づくり支援など。現在は、広島市佐伯区緑のプロムナードづくり支援、自転車とまちづくり研究会活動実施中。趣味は野良仕事と年に数回の船釣り。



松田 智仁 (まつだ・ともひと) 広島県生まれ。広島工業大学工学部建築学科卒業。広島市環境局資源・エネルギー・温暖化対策部ゼロエミッション推進担当課長。技術士(都市および地方計画)、一級建築士、土地地区画整理士。(社)日本都市計画学会、(社)日本建築学会、(社)広島県建築士会広島支部まちづくり委員会に所属。都市計画、企画、都市政策畑を中心に地方行政に携わりながら市民参画を展開、アフター5では、広島市西区で草津まちづくりの会、広島市内でアニメーション振興組織ハピークラブなどに所属し、市民主体のまちづくりを実践中。趣味は、洋蘭栽培と海釣り。